2022 新年ごあいさつ｜M＆A Online編集部

あけましておめでとうございます。

日頃、読者の皆さまには「M＆A Online」に変わらぬ声援を賜り、心より感謝申し上げます。コロナ禍との戦いは長期化し、3年目に突入することとなりました。新たな変異株が登場するなど、警戒を緩めるわけにはいきませんが、2022年がポストコロナ時代の元年になることを切に願うばかりです。

2021年のM＆A戦線はコロナ禍をバネに、いち早く活況を取り戻した感があります。年間のM＆A件数（適時開示ベース）は880件近くに上り、リーマンショックが起きた2008年（870件）以降の最多を記録。国内案件が高水準で推移したことに加え、外国とのビジネス往来の再開で国境をまたぐ海外M＆Aが復調したことが原動力となりました。

M＆Aを読み解くキーワードはDX（デジタルトランスフォーメーション）、脱炭素化…。ITによる社会・経済のデジタル変革やカーボンニュートラルは世界的な潮流といえ、M＆Aに向き合う企業の背中を押す形になっています。

国内にあっては中小企業の後継者難がピークを迎える「2025年」問題の解決が待ったなしで、M＆Aの活用が一層進みそうです。そうした中、昨年10月に発足したのがM＆A仲介協会（三宅卓会長＝日本M＆Aセンターホールディングス社長）。適正な取引ルールの徹底など、中小企業が安心してM＆Aに取り組める基盤整備を目的としており、今後の活動が要ウオッチです。

編集部では今年も1月末に、「M＆A年鑑2022」をダイヤモンド社から出版します。昨年の全M＆A（適時開示ベース）を取り上げ、金額やスキーム、業種、海外案件、都道府県、TOB（株式公開買い付け）などさまざまな角度から解説します。手元に置いていただければ、幸いです。

読者の皆さまにおきまして、2022年が良き1年になりますことを心よりお祈り申し上げます。編集部一同、M＆A Onlineならではの情報発信に全力投球いたします。引き続き、ご愛顧いただきたく存じます。

M＆A Online 編集長 黒岡 博明